

# バリアフリー推進レポート

## 小学生が障害当事者とともにバリアフリーを学び・体験する ～中国地方整備局とのコラボ～

中国運輸局では、「障害の社会モデル※1」、「心のバリアフリー※2」の啓発とその理解を深めることを目的として、学生や社会人を対象としたバリアフリー教室・各種啓発活動を継続的に実施しています。

このたび、中国地方整備局と連携し、広島市立船越小学校5年生を対象に、同局中国技術事務所において、路線バスを使った**バスの乗り方教室**を行うとともに、同事務所内にある**バリアフリー施設を体験し、障害当事者のお話を聞いてもらうバリアフリー教室**を開催しました。参加した児童には、日常における障害者の障壁を理解し、自ら何かできるかを考えてもらいました。

また、同事務所内に昨年12月開所した**インフラDXセンター**では、土木現場における最新のデジタル技術を見学し、土木の仕事に興味を持ってもらう取組も同時に行いました。

※1 障害の社会モデル…障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、とする考え方。

※2 心のバリアフリー…様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと。  
バリアフリー教室は令和2年のバリアフリー法改正に伴い「教育啓発特定事業」に位置付けられ、取組を強化しています。



# 船越小学校バリアフリー教室

## 【開催概要】

- 日時 : 令和7年5月9日(金) 9:20~11:50
- 場所 : 中国技術事務所(広島市安芸区船越南2丁目8-1)
- 主催 : 中国運輸局、中国地方整備局
- 協力 : 広島市立船越小学校、芸陽バス株式会社  
NPO法人日本頸髄損傷LifeNet 徳政 宏一 氏(講師)
- 参加者 : 広島市立船越小学校5年生 73名
- 内容 : ①バリアフリー体験 ②バスの乗り方教室・講師による講話 ③インフラDX体験

## 車椅子体験

段差の緩やかなところや、きついところなど、車椅子ユーザーが直面する困難を体験しました。



## 高齢者体験

おもりを付けて階段を上り下りをし、高齢者が感じる体の不自由さを体験しました。



## 視覚障害者体験

アイマスク・白杖を使い、慣れない場所での移動の大変さを体験しました。





## バスの乗り方教室

実際に地域を走っている路線バスを使って、バス会社の方がバスに乗る手順や、乗ってから降りるまでのマナーと注意事項について、教わりました。

また、バスの運転手目線の死角についても学ぶことができました。

## 徳政氏による講話

「まちなかで困っている人を見かけたら『何かお手伝いしましょうか』と声をかけてほしい。この一言でまちに笑顔が増えると思う」と徳政さんからのお話。

また、児童らは「階段があった場合はどうしているのか」など積極的に質問をしていました。



## インフラDX体験

インフラDXとは、インフラ（道路、電気、ガスなどの社会基盤）をデジタル化し、業務効率化や改善を図る取組です。

今回は、AR体験、バックホウシュミレーター、無人化施工を見学し、最新のデジタル技術を学びました。



バックホウシュミレータ

AR(拡張現実)体験

